

教 育 研 究 業 績 書

氏名 加納 和雄

著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌又は発表学会等の名称	概要	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
(学術論文) 1. "Two Short Glosses on Yogācāra Texts by Vairocanarakṣita: Vimśikātīkāvivṛti and *Dharmadharmatāvibhāti."	単著	2008年 (実際の 刊行は 2009年) (平成20年)	<i>Manuscripta Buddhica, Vol. I: Sanskrit Texts from Giuseppe Tucci's Collection, Part I. Serie Orientale Roma: IsIAO</i>	ジュッゼッペ・ツッチが1930年代にチベットにおいて撮影した梵文写本資料に基づいて、ヴァイローチャナラクシタ（十一世紀）著『二十論註』『法法性分別論註』の梵文校訂テクストを定め、梵文写真とともに提示した。	Francesco Sferra (ed.)	343- 380頁
2. "A Preliminary Report on Newly Identified Text Fragments in Śāradā Script from Zhwa lu Monastery in the Tucci Collection." In: Francesco Sferra (ed.), <i>Manuscripta Buddhica, Vol. I: Sanskrit Texts from Giuseppe Tucci's Collection, Part I.</i> Roma: IsIAO, 2008.	単著	2008年 (実際の 刊行は 2009年) (平成20年)	<i>Manuscripta Buddhica, Vol. I: Sanskrit Texts from Giuseppe Tucci's Collection, Part I. Serie Orientale Roma. Roma: IsIAO</i>	1930年代にジュッゼッペ・ツッチがチベットで撮影した梵文写本の中から、4点のテクストについての比定結果を報告し、その写真資料を提示した。	Francesco Sferra (ed.)	381- 400頁
3. 「チョムデンリクレル『弥勒法の歴史』—テクスト和訳—」	共著	2009年 (平成21年)	<i>Acta Tibetica et Buddhica 2</i>	近年刊行されたカダム派の古写本集成『カダム全集第二輯』に収録されたチョムデンリクレル著『弥勒法の歴史』の校訂テクストと和訳を提示し、チベットに伝えられた弥勒の五法およびその注釈者たちについて概観した。	中村法道	119- 139頁
4. 「チョムデンリクレル『大乗究竟論莊嚴華』和訳および校訂テクスト（1）」	単著	2010年 (平成22年)	『高野山大学論叢』45	二本のチベット語古写本を使用してチョムデンリクレルによる『宝性論』註冒頭箇所の和訳と校訂テクストを提示し、ターラナータによって他空派に帰されるチョムデンリクレルの如來藏思想に関する立場を、同書の内容分析を通じて跡付け、この立場がトルポバによって創始される他空説に影響を与えた可能性を指摘した。		13- 55頁

5. 「ゲンドゥンチュンペー著 『世界知識行・黄金の 平原』第一章和訳—1930年 代のチベットにおける梵文 写本調査記録—（1）」	単著	2010年 (平成22年)	『密教文化 研究所紀要』	1930年代にチベットにおいて膨大 な梵文写本を撮影し、近代仏教学 の発展に大きく貢献した、 ラーフラ・サーンクリッティヤー ^{ヤン} とゲンドゥンチュンペーに による梵文写本調査の実態につい て、旅行記の読解を通じて明らか にした。本稿ではその冒頭箇所の 和訳とテクストを提示した。	63- 103頁
(新聞記事) 理趣經梵本の刊行によせて	単著	2010年 (平成22年)	『高野山時	2007年に苦米地等流博士によって 校訂・出版された、『理趣經』梵本に ついて内容を紹介し、文献的な価値に について紹介した。	
(研究発表) サキヤ南寺三解脱門堂の 壁画曼荼羅		2009年 (平成21年)	平成21年度 密教研究会 学術大会	サキヤ南寺の一角にある三解脱門 堂壁画に描かれた、元朝に作成された、 ネパール様式をよく保持する19点ほどの 壁画曼荼羅について、美術史的な観点 から考察し報告した。 川崎一洋氏との共同研究。	
近年の仏典梵文写本研究 の動向—チベットおよび ネパール所蔵の梵文写本を 中心として—		2009年 (平成21年)		小谷信千代氏の特別部会パネル、 「梵文写本研究の現状と課題」に おいて、近年の仏典梵文写本研究 の動向について、特に近年顕著な 成果を上げつつある、中国、 西欧、日本との国際共同研究の 現状について報告した。	
欧米における仏教学の 最近の動向—『人権に 対する佛教的アプローチ』 を読んで—		2010年 (平成22年)		2009年ハノブルグ大学から刊行 された英文論文集『人権に対する 佛教的アプローチ』を読み解き、 特にチベットにおける人権問題 と、佛教教理における人権問題 との関連性の模索について 論じた。	
(その他) 「1930年代のチベット寺院		2010年7月	平成22年度密 教研究会学術大会 高野山大学		
「インド佛教における女性観 に関する研究史」		2011年1月	高野山大学 人権委員会		
(書評) 「新刊紹介・書評: 苦米地等 流校訂 Adhyardhaśatikā Prajñāpāramitā: Sanskrit		2011年	『密教学研究』 43		205- 223頁

and Tibetan Texts」 (競争的資金獲得状況) 三菱財団人文科学研究助成		2010年10月～ 継続中	研究課題「西蔵出土梵文写本の保存と公開—パトナ博物館所蔵ネガフィルムの電子化—」	研究代表者
日本学術振興会科学研究費補助金・基盤研究B		2010年4月～ 継続中	研究課題「ヴィクラマシーラ寺院の学僧の著作群における密教思想の位置づけに関する総合的研究」	研究分担者 [代表・三重 大学・久間泰賢]

※著書、学術論文、その他の別で列記してください。枠内の()の位置は分量に応じて変更してください。

*加納先生からいただいたデータでは英字部分のフォントはTimes Ext Romanを使用していました。

エクセルには無いので別のフォントを使用しています。そのため、文字化けしている可能性があります。(吉川)

所属	文学部	職名	助教	氏名	加納和雄	大学院の授業担当の有無 (無)
教育活動						
教育上の主な業績		年月日		概要		
1. 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		平成21年5月 (2009年5月)		高野山大学学内 F D 研修授業参加。		
2. 作成した教科書、 教材、参考書		平成22年6月 (2010年6月)		高野山大学密教学概論講義資料作成。		
3. 教育方法・教育実践 に関する発表、講演等		平成21年3月 (2009年3月)		平成21年度FD推進会議成果報告書に寄稿		
4. その他教育活動上 特記すべき事項		平成20年8月 (2008年8月)		平成21年度FD推進会議（新任専任教員向け）		